「未来市長」とは何か、その実践事例を紹介する

伊藤久雄（ＮＰＯ法人まちぽっと理事）

最近、「未来市長」という用語を耳にする。武蔵野市が 7 月 28 日に開催した「むさしの未来ワークショップ」も、中高生世代の参加者が「未来の市長」になって、まちづくりを考えるというコンセプトであった。

そこで「未来市長」という言葉で検索をかけてみると、数件ヒットした。本稿では、武蔵野市の取組みを紹介するとともに、他自治体の取り組みの状況を報告する（他自治体の取り組みは、当該自治体のホームページからの引用である）。はたしてこのような取り組みは波及していくことになるのか、皆さんとともに考えたいと思う。

１．むさしの未来ワークショップ（調整計画策定に向けたワークショップ）

○　むさしの未来ワークショップの特徴

特徴 1　中高生世代の参加者が「未来の市長」になって、まちづくりを考える

特徴 2　「未来シミュレータ」で 2050 年の武蔵野市の分析結果を知る

特徴 3　中高生世代が、直接松下市長に提言・メッセージを伝える

○　事業協力

この事業は千葉大学研究グループ OPoSSuM（オポッサム）の協力で実施された。「未来シミュレータ」（各種統計データより、このままの傾向が 2050 年まで続いたとしたら、どのような社会になるかをさまざまなグラフで示すもの）やワークショップの実施手法について協力いただいた。

＜むさしの未来ワークショップ事業案内チラシ＞

http://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/039/482/flyer.pdf

○　日程・参加者

日時：令和 4 年 7 月 28 日（木曜日）午前 10 時から午後 4 時

場所：武蔵野スイングホールレインボーサロン

参加者：18 名

傍聴者：5 名

○　当日の様子

○　アンケートから（回答者は大人の傍聴の５名からのもの）

総じて肯定的な意見が多い。アンケートのまとめはA版２枚なので、下記全文をぜひ読んでください。

＜傍聴者アンケート＞

http://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/039/682/annke-to.pdf

２．他自治体の事例

以下は、順不同で筆者が検索した結果を要約したものである（検索は@nifty と GoogLe の２つ）。

○　新座市　令和４年度「未来の市長」作文募集

・未来を担う子どもたちのユニークな意見を市政の参考にするとともに、新座市に対する子どもたちの関心や愛着を深めるため、「もし私が市長になったら、こんなことをしてみたい、こんな新座市にしたい」というテーマで作文を募集。

・作文のテーマは「もし私が市長になったら、こんなことをしてみたい」である。

・応募資格は「市内在住の小学４・５・６年生」となっている。

○　福井県大野市　令和３年度「わたしが未来の市長プロジェクト」

・このプロジェクトは、若者の視点で地域資源を見つめ直し、まちの将来像や活性化策などを市に提案してもらう事業。（平成 29 年度から開始）

・５年目となる令和３年度は、大野高校１年生（全４クラス、123 人）が、週１回の総合的な探究の時間を使い、4～5 人のグループ（全 26 グループ）に分かれて、市の将来像や活性化策などを考えた。

・第六次大野市総合計画基本構想の基本目標に沿って、「こども・健幸福祉」、「地域経済」、「くらし環境」、「地域づくり」の各分野を４クラスに割り振って、クラスごとに異なる

分野から提案を検討した。

・検討は、市職員の出前授業（4 月）、フィールドワーク（7 月）、ポスターセッションによる中間発表会（10 月）、まちづくり専門家の特別講義(12 月)、校内発表会（1 月）など、年間を通して取り組み、提案を磨き上げた。

・当初、市の成果発表会を 2 月に開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえて、中止とした。発表会に出場予定であった 5 グループの発表は、後日、ビデオで行われた。

○　白井市　しろい脱炭素・未来ワークショップ

・2022 年 6 月 22 日、南山中学校でオポッサム研究グループ（千葉大学・芝浦工業大学・国立環境研究所）協力のもと、特別授業「しろい脱炭素・未来ワークショップ」が開催された。

・この授業は南山中の 2 年生 5 クラスに対して行われ、各クラスと市長などがいる多目的室 6 つの教室を、Zoom（オンライン会議）で常時繋いで行われた。

・2050 年のさまざまな課題を読み取り、「白井カーボンニュートラルシミュレータ」などを活用して「どんな白井になっていて欲しいか」、そのためには、2022 年の現在にどんな対策をとれば良かったのかグループで考えて、直接、市長や教育長に提言する特別授業であった。

・提言はグループごとに市長や教育長、市議会議員を前にして発表された。

○　京都府南丹市　「市長と語ろう　南丹市未来予想図」

・市長が将来を担う若い世代から意見や提言を聞き、直接顔を合わせて対話することで、本市の広聴機能の充実を図ることを目的に、市長×学生ミーティング「市長と語ろう南丹市未来予想図」を開催した。

・「これからも住み続けたい南丹市」をテーマとし、1 月 31 日、南丹市役所内で行われた。

・参加対象は、南丹市内に在住または通学の高校生、大学生、専門学生で、定員２０名（応募者が多数の場合は、抽選）。

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温、消毒は勿論、窓は全開、参加者間に十分な間隔をとった上、発言はマイクで行うなど、対策を徹底した。また、参加者に楽しんでもらうため、【参加者同士が近づかない・触れ合わない】グループワークに挑戦しようということで、電子ホワイトボードの「Google Jamboard」を使用した。新たな試みだったが、デジタルネイティブの若者たち、すいすいと「Google Jamboard」を使いこなしていた。

・グループワーク後はグループワークの内容をもとに、市長との対話を行い、若者たちからはまちづくりに対する熱い意見が次々と飛び出すなど、楽しい会になった。

・「南丹市未来予想図」の詳しい内容は、南丹市ＨＰ、南丹市ＣＡＴＶ、広報なんたんなどで発信された。

・南丹市未来予想図 第 1 部 -
YouTube（2022/02/06）
https://www.youtube.com/watch?v=6LNEi_zMDBO

○　千葉県君津市　市長に政策提言を行う持続可能なまちづくりワークショップ

・この事例は、千葉大学のオポッサム研究グループ（代表責任者：大学院社会科学研究院 倉阪秀史 教授）が、持続可能なまちづくりに関する研究開発プロジェクトの一環で、2020 年 12 月 19 日（土）に君津市と共同で開催したもので、千葉大学のニュースイベント情報として紹介されたものである。

・この「未来ワークショップ」は、同研究グループが開発した「未来カルテ」を基に、参加者が未来（2050 年）の市長になったという設定で、少子高齢化に伴う産業構造の変化や人口構成の高齢化などの観点から、未来の市の状態や課題を把握し、将来世代の立場から持続可能なまちづくりについて、現在の市長に政策提言を行うワークショップであった。

未来カルテを使った 2050 年の君津市の状況説明と、市役所からの君津市の紹介

・「未来ワークショップ」の概要（プレスリリース）
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000447.000015177.html

○　甲府市　こうふ未来ワークショップ

・本市の将来を担う若者が、２０年後の将来予測データ（甲府市未来カルテ）に基づき、本市の課題や魅力を考え、目指したい将来像とその実現のための施策について主体的に話し合う機会として、「こうふ未来ワークショップ」を令和元年１２月２２日（日曜）に市役所本庁舎にて開催した。

・このワークショップでは、市内の中学生１４名が参加。本市の職員と一緒になって、「国立研究開発法人・科学技術振興機構」と「千葉大学」が共同研究の成果としているカリキュラムを活用し、本市の２０４０年までの「未来データ」などについて学習し、中学生が「未来市長」になって「現在の市長」である樋口市長に、直接、施策提言を行った。

・当日は、千葉大学大学院社会科学研究院特任研究員の宮崎文彦先生にも参観いただき、全国でも初めての試みとなる市独自開催の未来ワークショップに、大きな関心と今後の取組みに対する期待をいただいた。

・このワークショップを通じて、「こうふ開府５００年記念事業」の基本理念である、「過去に学ぶ・現在(いま)を見つめる・未来につなぐ」を「まちづくり」に置き換えて学習することで、本市に対する愛着と誇りを醸成し、子どもたちが自分のまちの将来を思い、描くきっかけとなっていただきたいと思う。

「こうふ未来ワークショップ」(2019.12.22（日）開催）報告書
https://www.city.kofu.yamanashi.jp/toshikekaku/miraiws/documents/kofumiraiworkshophoukokusyo.pdf

○　館山市　中高生が未来市長になって現市長に政策提言

・この事例も、千葉大学のプレスリリース情報に掲載されたものである。

・中高生が未来（2040 年）の市長になったという設定で、少子高齢化に伴う産業構造の変化や人口構成の高齢化などの観点から、市の現状や将来の課題を把握し、将来世代の立場から、2040 年に向けた持続可能なまちづくりについて、現在の館山市長に政策提言を行った。

・OPoSSuM 研究グループでは 2015 年 8 月に市原市で、2016 年 11 月に、八千代市で、それぞれ未来ワークショップを開催した。OPoSSuM 研究グループのＨＰをみると、【協力自治体】として八千代市、市原市、館山市、千葉県があげられている。

３．OPoSSuM オポッサムとは

先の事例でみたように、「未来市長」の取り組みは、千葉大学の OPoSSuM オポッサムという研究グループが自治体と共同で、あるいは協力して運営したものである。OPoSSuM オポッサムとはそのＨＰをみると、「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保（Open Project on Stock Sustainability Management ： OPoSSuM オポッサム)」ということになる。

この研究グループは、科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX)「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域に 2014 年度に採択されている（～2019 年度)。その後、2019 年度より環境省環境研究総合推進費に採択され「基礎自治体レベルでの低炭素化政策検討支援ツールの開発と社会実装に関する研究」（Open Project on Supporting-tools for Municipalities towards De-carbonized Societies ： OPoSuM-DS）として、引き続き研究プロジェクトを遂行している。

未来ワークショップも研究プロジェクトの一環であり、将来の地域を担う中高生に 2040 年（2020 年以降は 2050 年）の未来市町村長になってもらって、今の市町村長に提言する未来ワークショップを提案している。ワークショップでは、未来シミュレータやつながり調査の結果を伝え、まちあるきを交えながら、地域への理解を深め、それらを踏まえて、未来市長として、今の市長に対する政策提言を行う。

＜未来ワークショップ＞
https://ristex2014.sakura.ne.jp/wp/wpcontent/uploads/2022/05/%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97.pdf

このＰＤＦによれば、2015 年に千葉県市原市で最初に開催している（甲府市が最初だというのは誤りのようだ)。また 2018 年 8 月 29 日には、鹿児島県西之表市で開催している（中学生 15 人、高校生 22 人が参加)。そこでこれまでのところ、市原市、八千代市、市原市、館山市、白井市、君津市などの千葉県内自治体で取り組まれ、さらに甲府市、新座市、福井県大野市、京都府南丹市、鹿児島県西之表市などに広がり、今年になって武蔵野市で開催されたという経緯になると思われる。

４，他の自治体に普及するか

これまで、若者（たとえば 39 歳以下）の意見を自治体政策に反映させる取り組みには、若者会議や若者議会などがあった。中でも注目されたのは愛知県新城市の取り組みである。新城市は「新城市若者議会条例」に基づき、若者が活躍できるまちづくりを目標に取り組みをすすめている。本稿は若者議会について考察する場ではないので詳細は割愛するが、参考資料として「若者議会、その先へ！―さらなる発展を試みる―」愛知大学 地域政策学部 鄭ゼミ(鄭智允)をあげたので参照されたい。

本論には最初の若者会議とされる小布施町若者会議も紹介されているが、若者会議は全国でも相当数に上る。

また最近では、日本版気候若者会議（参考資料参照）や武蔵野気候市民会議（今年 7 月開催）、無作為抽出型として、日本で初めて 2020 年 11 月に開催した「気候市民会議さっぽろ 2020」、2021 年 5 月の「脱炭素かわさき市民会議」のように、特定の政策課題を議論し、提言する取り組みもある。

ところで「市民市長」は、現在の課題を提案するのではなく、現在の中高生が 2040 年あるいは 2050 年になった時の政策を現状から考え、提起するという仕組みで、若者会議や若者議会とは異なるものである。はたして今後、他の自治体に普及するのかどうかが課題であるが、最も新しい武蔵野市や、5 年間という長期にわたって取り組まれた大野市などの取組みが参考になると思われる。

最初の紹介では省いた「むさしの未来ワークショップ」における参加者（大人）の感想（アンケート）から、1 点紹介しておきたいと思う。

＜Ａさんのアンケート＞

・「未来の市長」が現在の市長に提言を届ける、という設定が面白いです。
・未来カルテに書いている事は大人向けのワークショップでも建設的な話し合いをする為には大切な事だと思うので、先日の市民会議でも欲しかったと思いました。今後、六長調（注：第六期長期計画・調整計画）ＷＳでも冒頭に伝えてはいかがでしょうか。
・大人向けにＷＳがあっても面白いではないかと思いました。あまり未来に生きる人達ではありませんが、大人の方が「市全体の未来について考える」というより自分の関係するコミュニティの事ばかりになりがちなので、何か気づきを与えることができるかもしれません。（我勝ちになっている事に気づいてもらう）

＜参考資料＞

■武蔵野市ＨＰ
http://www.city.musashino.lg.jp/koho/pressrelease/r4/07/1039482.html
■新座市　令和 4 年度「未来の市長」作文募集
https://www.city.niiza.lg.jp/site/miraino-shicho-sakubun/mirainoshichosakubun-r3.html
■令和 3 年度「わたしが未来の市長プロジェクト」の成果発表について　大野市
https://www.city.ono.fukui.jp/shisei/seisaku-keikaku/jinkogenshotaisaku/shityo.html
■南山中生が 2050 年の未来市長に!? しろい脱炭素・未来ワークショップ　白井市
https://shiroi-match.jp/article/jigyou_shiroi/65945

■市長×学生まちづくりミーティング「市長と語ろう　南丹市未来予想図」参加者募集
https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/137/007/000/index_88053.html
■君津市と共同で中高生が"未来市長"になって考える「きみつ未来ワークショップ」
千葉大学　https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/post_934.html
■令和 3 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会　報告書　富良野市
https://www.city.furano.hokkaido.jp/fs/3/9/4/6/1/_/houkoku2_2021021_bunkakaikan.pdf
■こうふ未来ワークショップを開催しました
https://www.city.kofu.yamanashi.jp/toshikekaku/miraiws/kofumiraiwskaisaihoukoku.html
■中高生が未来市長になって現市長に政策提言する「たてやま未来ワークショップ」
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000200.000015177.html
■未来市長　画像検索
未来市長 - Google 検索
■OPoSSuM オポッサム協力自治体　八千代市、市原市、館山市、千葉県
https://opossum.jpn.org/project/research-structure/
■OPoSSuM オポッサム　【代表責任者】千葉大学大学院人文社会科
https://opossum.jpn.org/
■若者議会、その先へ！―さらなる発展を試みる―愛知大学 地域政策学部 鄭ゼミ（鄭智允）
https://www.city.shinshiro.lg.jp/shisei/machidukuri/forum2018.files/20181203-143151.pdf
■気候若者会議 2021 活動報告書
Microsoft Word - 日本版気候若者会議 2021_活動報告書.docx (youthclimateconference.jp)